

# 「永原小学校の吉左右踊り・太鼓踊り伝承活動の取組」

## 1 学校名

始良市立永原小学校

## 2 学年・人数

全学年（37人）

## 3 日時・場所

### (1) 練習の日時・場所

9月：永原小学校体育館

### (2) 発表の日時・場所

平成29年度永原小学校・永原小校区合同秋季大運動会（9月）：永原小学校

## 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝承行事について

### (1) 名称

吉左右踊り（きそおどり）・太鼓踊り（たいこおどり）

### (2) 由来

旧加治木町に伝わる太鼓踊りは、由来が古く特に西別府地区の太鼓踊りには吉左右踊り（きそおどり）が付随している点に特徴がある。吉左右踊りは、ドラ打ちという道化人（赤狐、白狐という）と数人以上の踊り手2組で構成される。白緋の着物を着て毛頭をかぶり、薙刀を持った朝鮮軍と、黒緋の着物を着て白鉢巻を結び太刀を持った薩摩軍とが、互いに向き合っって斬り結ぶ間を、赤狐・白狐がひょうきんな身振りで回る。狐は島津義弘が朝鮮での戦いで道に迷ったとき、2匹の狐が道案内をしてくれたという伝説に基づくものとされている。

太鼓踊りは、陣笠をつけた兵士姿の者が背に黒い羽根のついた矢旗を負い、胸には締太鼓をさげ、左右に足をあげながら太鼓を打ち、勇壮に踊る。

### (3) 構成等

吉左右踊りは、ドラ打ち2人・朝鮮軍・薩摩軍それぞれ10人で隊形を組み、薙刀や太刀・扇子を持ち、口元には付けひげを付けて踊る。太鼓踊りは、鐘打ち3人・太鼓打ち20人で隊形を組み、太鼓や鐘を打ちながら踊る。こちらも口元には付けひげを付けて踊る。

## 5 保存会や地域との連携の具体

毎年9月初旬から秋季大運動会まで期間に、保存会の方々が動きを伝授してくださる。総合的な学習の時間等を中心に練習を重ね秋季大運動会では、多くの校区民が観覧する中、鐘や太鼓の音を響かせて発表し、喝采を得ている。

また、夏休みに行われる始良市の「太鼓踊り」に親子で参加する児童もいる。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

毎年、永原小地域コミュニティ主催の「ふるさと学寮」では、5・6年生児童が校区公民館で一週間の協同生活を行っている。その期間に、「吉左右踊り・太鼓踊り」の指導者の方も参加して下さり、食事を共にしながら交流をより深めて

いる。

学校では総合的な学習の時間に由来等について調べることを行っている。練習時には、高学年が下学年児童に動きを教えるほほえましい場面も見られる。また、国語科では練習や発表時の心の変化を文章表現したり、図画工作科では彫塑を作成したりしている。

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場所）



【体育館内での練習風景より①】



【体育館内での練習風景より②】



【秋季大運動会での発表風景より①】



【秋季大運動会での発表風景より②】

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

〔児童の感想・意見〕

毎年運動会で発表している。去年の上級生の動きもとても良かった。今年は自分達の番だと思って練習に励んだ。小学校の運動会での発表は最後だったが、これからも先輩方のきれいな動きを学び、そして後輩にも伝えることが自分の役割だと思っている。

〔保存会の感想・意見〕

年々児童数が減少しているものの、毎年運動会で発表してくれる児童に感謝している。特に本年度は練習時に好天が続き、熱中症等も心配された。しかし、どの子も一生懸命に練習に参加し、運動会当日は立派に発表できたと思う。今後も是非継続し、郷土の素晴らしさを後輩達に伝えて欲しい。

〔教員等の感想・意見〕

地域に伝わる伝統行事について、資料を使って調べたり家庭・地域の方々に取材して調べたりしたことを実際に体感できることは、とても貴重な経験である。文章や造形表現等をとおして、今後も地域の良さに気づき、伝統を受け継いでいくことの重要性について学習させたい。